

Q1. 提案モデルは演算について閉じているのか。(森島先生(芝浦工大))

A1. 電子スクラップは漢字文献の部分文書であり、それぞれ共通の要素を用いているので演算について閉じていると考えています。ただ、今後、さらに検討を重ねて提案モデルを改良したいと思います。

Q2. 多言語の入力をどのように行うのか。(国島先生(岡山県立大))

A2. UNICODEを利用します。

Q3. UNICODE を使っている限り、文字の unification を行うのは不可能ではないのか。(国島先生(岡山県立大))

A3. 文字の形状に関しては表示情報で対応しようと考えています。また、検索キーでの記述には、外字などがあるのでUNICODEだけ対応するのは難しいと思います。その対応として本研究の提案モデルでは、文字に関する意味や読みなどの辞書情報を積極的に取り入れることで対応しようと考えています。

コメント: 専門家の意見を聞くと、漢文や古文を扱うのに UNICODE などをもっての外だ。(春本先生(大阪大学))

Q4. このシステムが想定している利用者どういった人なのか? 利用者を想定した要求をきちんと考えて機能を実現するべき。(春本先生(大阪大学))

A4. 本研究での想定は、文系研究者や学生への資料収集の支援を考えていますが、関係者に対する具体的な聞き取り調査は、現状では不十分です。今後、関係分野の研究者や学生に聞き取り調査等を行って機能を充実させていきたいと思っています。

Q5. 電子スクラップは他の文書に貼り付けることは可能なのか?(中島さん((株)ネットストック))

A5. 現状では、電子スクラップブック以外への文書に貼り付けることは考えていません。しかし、電子スクラップもXML文書ですのでXSLTなどを利用して実現させたいと考えています。

Q6. 実際の応用ではアクセスコントロールを考える必要があるのではないか。(中島さん((株)ネットストック))

A6. 現状では考慮していませんが、今回のプロトタイプのように漢字文献データと電子スクラップブックの両方のデータをサーバ側で管理するのであれば、アクセスコントロールの機能を組み込むことは比較的容易にできるのではないかと考えています。